

県人会 だより



令和3年8月号

ひろしま福島県人会

(左は桑折町ふれあい公園)

●ふるさとひろば中止・駅伝は実施予定

2022年1月23日開催予定の「天皇盃 第27回都道府県対抗男子駅伝大会」の応援を目的とする駅伝ふるさとひろば、ふるさとキャラクター応援団、小学生応援のぼりは中止となりました。なお駅伝当日、沿道での応援も自粛してくださいとの連絡が事務局より来ております。残念なことですがオリンピック同様テレビでの応援をお願いします。

しかし大会は開催されますので選手団への激励対応は役員会で協議しすることとします。

●親子記者に会員の「道上さん」

長崎の被爆平和活動について学ぶ「親子記者」の中国ブロック代表に当県人会会員の道上有香さん、香蓮さん親子が選ばれたと中国新聞に掲載されましたのでご紹介します。

道上さんは今年入会しました。ご主人は惑星科学の近畿大学教授で小惑星探査機「はやぶさ」の画像データの解析などを手掛けておられます。

(25) 地域

2021年(令和3年)7月30日(金曜日)

長崎の被爆者ら取材へ

東広島市の道上さん「親子記者」に選出



津森教育長(左端)や高垣市長(左から2人目)に抱負を語る道上さん親子

長崎の被爆や平和活動について学ぶ「親子記者」の中国ブロック代表に、東広島市の西条小4年道上香蓮さん(9)と母有香さん(29)が選ばれた。2人は29日、市役所を訪れ、高垣広徳市長たちに意気込みを述べた。

親子記者は、同市も加盟する日本非核宣言自治体協議会(会長・田上富久長崎市長)が主催。参加者は長崎の被爆者や平和祈念式典などを取材し、同協議会が発行する「おやこ新聞」に記事を掲載する。

新型コロナウイルス禍を受け、取材は昨年到现在に続いてオンラインで行う。道上さ

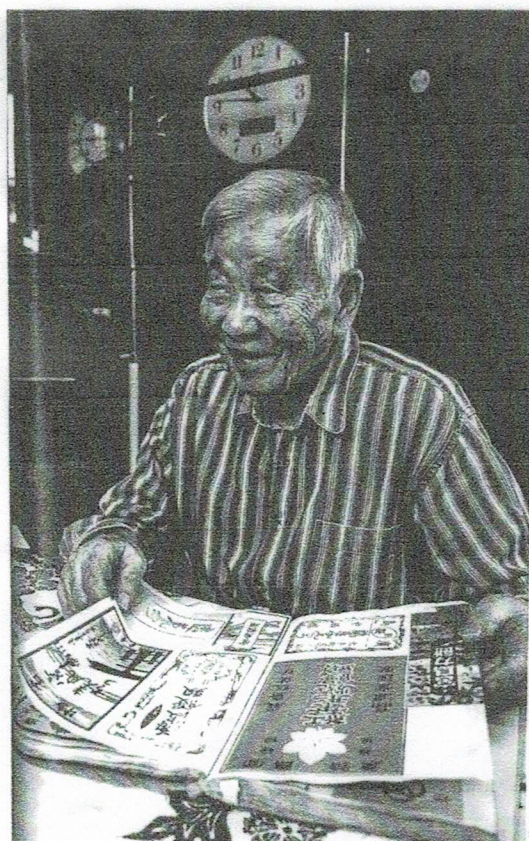
ん親子は8月6日から自宅
で、長崎市内の被爆者や核
兵器廃絶を目指す若い市民
のオンラインインタビュー
を予定している。

高垣市長や津森毅教育長
と面会した香蓮さんは「広
島と同じ被爆地の長崎をよ
く知りたい」と意欲を語っ
た。高垣市長は「しっかり
学び、思い出に残る夏にし
てください」と激励した。
香蓮さんを妊娠中に福島
第1原発事故が発生し、当
時暮らしていた福島県いわ
き市から県外に逃れた有香
さんは「親子で被爆や核に
ついて学ぶ良い機会にした
い」と話した。

(教蓮孝匡)

●会員紹介 加藤恭夫さん

加藤さんより、昨年資料をいただいております。今回掲載させていただきます。



第5便

あなたに
伝えたいこと



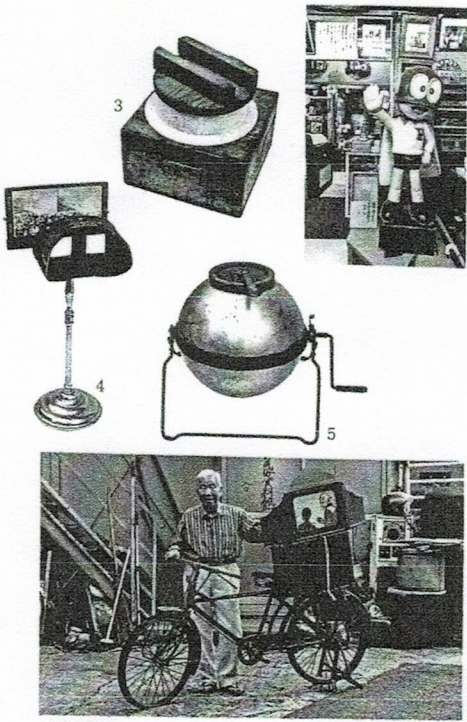
生活用具は庶民の文化財。

どんなハイテクな機械や道具も、元は人の手から始まったことを子どもたちに知ってほしい。

加藤 恭夫さん

(広島県呉市阿賀在住・88歳)

1931年生まれ。3男2女の長男として東京で生まれ、軍人だった父について中国の上海から佐世保、福島などに移り住み、旧制中学2年の7月には呉の大空襲に遭い、8月6日にはキノコ雲を広から目撃した。39歳の時、まだ世間では知られていなかった国家資格の社会保険労務士を取得。広島県社会保険労務士会連合会を立ち上げ、県労働保険事務組合連合会一代目会長を10年務める。1975年ごろから暮らしの道具の収集を始め、2004年「子供のための民俗資料館」を開設。2006年旭日雙光章を受章



1.「人がいないと思うものにも、お宝はいっぱいある」と、名物饅頭のラベルを集めたスクラップブックを前に加藤さん
2.1メートルほどの大きなパーマンの人形はテレビ番組「開運!なんでも鑑定団」で50万円と評価されたそうだ
3.「コードがない」と驚かれた羽釜 4.立体的に見える明治時代ののぞきからくり「立体写真眼鏡」 5.珍しい昭和20年代に発売された初期の洗濯機 6.鉄製の重い自転車には戦時中の紙芝居が…

張り子の人形やおもちゃなど郷土玩具から

歴代の教科書、たらいや釜などの民具が通路にまではみ出して並んでいる。こは「子供のための民俗資料館」と銘打った私設ミュージアム。駄菓子を入れる引き出し付きの紙芝居の箱が積まれた古い自転車のそばには「のぞきからくり」が。のぞいてみんさい。明治のものじゃが、今で言う3Dよね」と館長の加藤恭夫さん。

高度成長期のまっただ中の1975年ごろ、羽釜を見た近所の小学生に「これは何?」とたずねられ「ご飯を炊くものよ」と答えると、「コードがないの?」と不思議そうな顔をされた。そこから古いものの収集が始まった。不法投棄されたゴミの中から、軽トラで拾い集めた。捨てに来たと勘違いされて、とがめられたこともあったという。

そうして集めた民俗資料は2万点を超え、展示する私設ミュージアムを2004年オープン。ジャンルや時代、ことに分け、歴史をたどり、文献を調べ、解説を付けた。「使い続けられてきた生活用具は庶民の文化財ですよ。骨董品として価値のあるものではないけど、大切なものばかり。どんなハイテクな機械や道具も元は人の手から始まったことを子どもたちに知ってほしいのですね」。一堂に会して見ることで変遷や歴史を知れることもできる。小学校から見学に来る子どもたちにもまして多いのは、時代を知る往年の大人たち。懐かしさもあって、話が弾む。しかし、いまだ整理しきれない資料が館内は言うに及ばず、軒下や倉庫にまで溢れている。

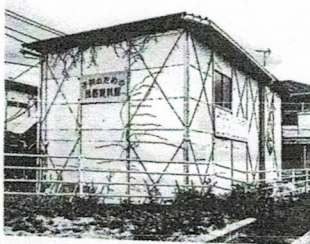
現在、これまで

の収集物をあらためて整理、分類中だという。「私にも価値があるかどうかかわからんものもいっぱいあって、家族にはゴミじゃがらくたじゃと言

われませんが、最後まで徹底してやるのが、私の信条。調べることも片付けることも楽しい。これが私の勉強と笑う。転校を繰り返したこともあって勉強嫌いだっただが、大人になってからは人一倍努力してきた。続けることが自分を鍛え、人からも認められる人格をつくってくれたと話す。

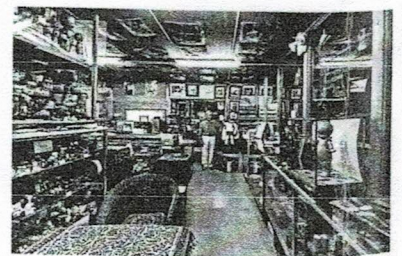
「価値はお金だけでは計れない。今、自分が楽しんで満足できたらそれでええ。後の人が価値があると思えば残してくれらるだろうし、そうでなければ、消えてなくなる。未練はない」。溢れるものに囲まれてなお、執着心のない生き方は見事だ。

文・平木久恵 写真・沖松岩生



子供のための民俗資料館

広島県呉市阿賀5-13-12
電話/0823-72-7219
開館/8:30~17:30 休日/不定期
入館料/無料 ※来館は要問い合わせ
090-3375-3542(加藤)



「子どもたちに見せてやりたい、話してやりたい」ものが詰まった資料館

●福島県の物産展

毎年2月初旬、福屋百貨店八丁堀店で開催される「福島県の物産展」は10～11月頃に開催の可否や概要が決まります。

●大阪事務所の紹介（総務部の出先機関です）

1. しごと

1. 福島県の特産品や観光地の紹介
2. 福島空港（路線）の宣伝
3. 福島県への企業の誘致
4. 福島県産農産物の販売促進
5. 避難者の情報収集や支援
6. 関西地区で活動する福島県出身者（県人会）への活動支援

2. 場所

〒530-0001

大阪府大阪市北区梅田1丁目3番1-900号 大阪駅前第1ビル9階

Tel 06-6343-1721

Fax 06-6343-1727

メール osaka.jimusho@pref.fukushima.jp

3. 開所時間

平日の9時から17時45分まで（事務所には9時から17時30分までお入りいただけます。）

※土日祝日、年末年始はお休みです。

4. アクセス

ホームページをご覧ください。

●同封の印刷物

1. ふくしまの今がわかる新聞（vol.85）
2. ふくしまの今がわかる新聞（vol.86）